



住みたくなるまち日本一を目指して

～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～

令和3年度 富谷市総合計画審議会 市政運営について

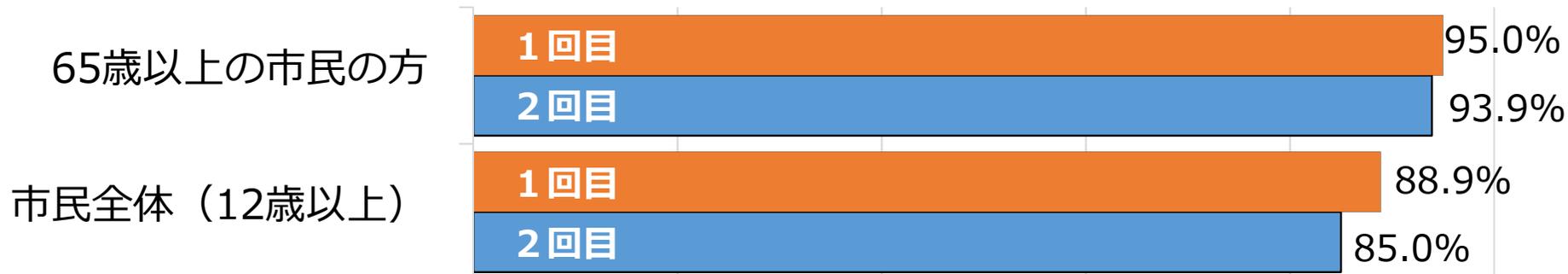


新型コロナウイルス感染症対策について





●接種状況（令和3年11月1日(月)時点）



予約の受付は、現在**12歳以上の方全員を対象**としております。

接種の加速化を図るため、9月の夜間と土日には医療機関7か所で臨時接種を実施したほか、重症化のリスクの高い妊婦の方が優先的に接種可能な環境を整えてきました。

8割以上の方が1回目の接種を完了しているため、新規の予約受付についてはワクチンの廃棄を防ぐため、富谷市・黒川管内あわせて8か所の医療機関に絞り、個別接種を継続しております。

10月には、**富谷スポーツセンターにおいて集団接種**（右記日程）を実施し、10月末には8割の方が2回目の接種を終える見込みとなっております。

1回目	2回目
10月7日(木)	10月28日(木)
10月9日(土)	10月30日(土)
10月10日(日)	10月31日(日)



新型コロナウイルスの独自経済対策について

3

本市では、新型コロナウイルス感染症の発生による市民の皆様や地域企業への影響を最小限に抑えるため、これまでに様々な独自支援策を実施してきました。

【主な支援策】

- とみや応援商品券の交付
- とみや敬老祝商品券の贈呈
- とみやふるさと便
- 新生児特別定額給付金事業
- 保育所・児童クラブ・幼稚園職員慰労金支援事業
- 市内医療機関等従事者感謝・応援事業
- 出張販売促進事業（事業者向け）
- 事業継続支援事業
- 店舗等賃料補助事業
- 富谷市キャッシュレス決済プレミアムポイント事業
- テイクアウト等利用促進事業「食べて応援クーポン」発行
- 農業継続支援事業（米生産者支援金支給） など



引き続き、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、効果的な支援策の実施を検討していきます。

富谷市のまちづくり



富谷市の将来に向けて

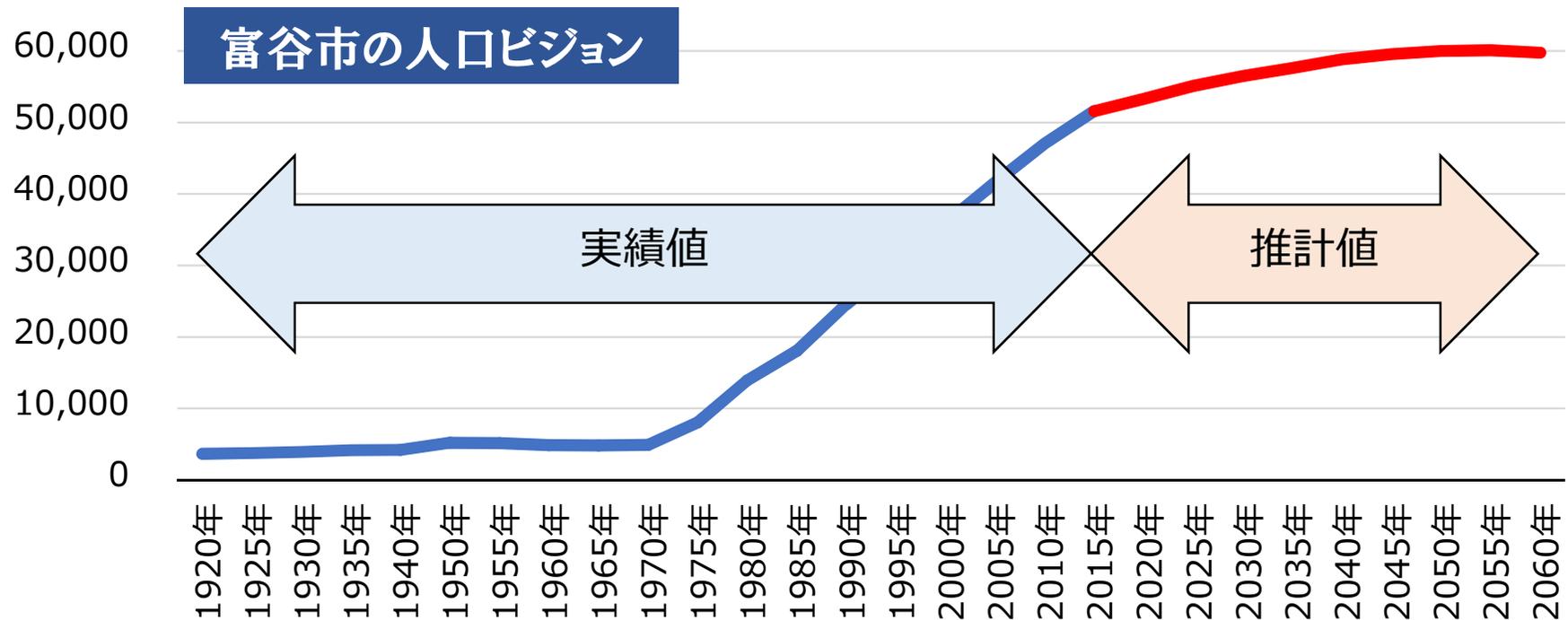
まちづくりの将来像を描く 『富谷市総合計画』策定

まちづくりの将来像 構想期間／平成28年度～令和7年度



住みたくなるまち 日本一

～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～



自治体評価ランキングで軒並み高評価！

● 住みよさランキング2021 (R3.6.17発表)

東洋経済新報社が発表した
ランキングにおいて、全国
812市・特別区中、

宮城県第1位 (2年連続)

北海道・東北地区第2位

となりました。

順位	宮城県	北海道・東北
1	富谷市	東根市 (山形県)
2	名取市	富谷市
3	仙台市	盛岡市 (岩手県)
4	岩沼市	天童市 (山形県)
5	塩竈市	会津若松市 (福島県)

● 住みこころランキング2021 (R3.7.14発表)

大東建託株式会社が発表
したランキングにおいて、

宮城県第1位 (3年連続)

東北第1位 (2年連続)

となりました。

順位	宮城県	東北
1	富谷市	富谷市
2	仙台市宮城野区	東根市 (山形県)
3	仙台市太白区	仙台市宮城野区
4	仙台市若林区	仙台市太白区
5	仙台市泉区	仙台市若林区

● 「住み続けたい街」「街に誇りがある」ランキング東北第1位

(R3.10.20発表)

<住み続けたい街>

順位	自治体名	偏差値
1位	富谷市	73.9
2位	岩手県紫波郡矢巾町	71.0
3位	山形県天童市	68.9
4位	山形県東根市	68.0
5位	岩手県滝沢市	66.6

<街に誇りがある>

順位	自治体名	偏差値
1位	富谷市	73.2
2位	青森県弘前市	72.1
3位	山形県天童市	68.9
4位	山形県東根市	67.4
5位	福島県喜多方市	66.8

<街に愛着がある>

順位	自治体名	偏差値
1位	青森県弘前市	69.5
2位	富谷市	68.9
3位	山形県東根市	67.3
4位	山形県酒田市	66.2
5位	岩手県滝沢市	65.2

<街の幸福度>

順位	自治体名	偏差値
1位	青森県藤崎町	78.0
2位	名取市	72.8
3位	青森県おいらせ町	71.0
4位	富谷市	70.6
5位	秋田県美郷町	68.1

まちづくりの3つの新たな視点

令和3年度からは、新たに3つの視点を加えてまちづくりを行っています。

① ウィズコロナ・アフターコロナにおける新しい生活様式

今後の行政運営において、**新しい生活様式への転換を想定した、行政サービスのデジタル化などを進めていきます。**

② 子どもにやさしいまちづくりの推進

平成29年から（公財）日本ユニセフ協会と連携して、「子どもにやさしい」ことは「誰にでも優しい」という考えのもと、**子どもにやさしいまちづくりの推進**を行ってきました。

平成30年11月には「**富谷市子どもにやさしいまちづくり宣言**」を行うなど、「子どもにやさしいまち」「子育てにやさしいまち」を目指して、全庁的に各施策を展開しています。

③ SDGs（持続可能な開発目標）の推進

本市が基本構想に掲げた将来像「住みたくなるまち日本一」や4つの基本方針は、市民や事業者、行政などの関係者が共に6つの基本理念に基づき、まちづくりに取り組むことによって実現される目標であり、これらの取組こそが、SDGs達成に向けた取組に貢献するものと考えています。



まちづくりの3つの新たな視点

子どもにやさしいまちづくり宣言

平成30年10月29日、日本ユニセフ協会から「**日本型CFC(※)モデル検証作業自治体**」として委嘱を受け、11月20日には、“子どもが大切に育てられ健やかに成長できるまちを目指す”など5項目を示した、「**富谷市子どもにやさしいまちづくり宣言**」を行いました。

検証作業の期間、**すべての職員が子どもを物事を考えられる**よう意識づけを行ってきました。

令和3年4月からは、日本ユニセフ協会が示す**CFC自治体**として、引き続き「子どもにやさしいまちづくり」を推進します。

※CFC…Child Friendly Cities & Communitiesの略で“子どもにやさしいまち”



富谷市子どもにやさしいまちづくり宣言

富谷市は、10月29日に日本ユニセフ協会から、全国5自治体のひとつとして、「子どもにやさしいまちづくり事業検証作業モデル自治体」の委嘱を受けました。これを受けて、「子どもの権利条約」に基づき、私たちは、

1. 子どもが大切に育てられ健やかに成長できるまち
2. 子どもが安心安全に暮らすことができるまち
3. 子どもが友だちと交流し、楽しく遊び学べるまち
4. 子どもが地域社会の絆の中で役割を持ち、生き活きと参加できるまち
5. 子どもの意見を聴き、まちづくりに活かすまち

の5つを柱として

国連が定める「世界子どもの日」である、本日、11月20日に「富谷市子どもにやさしいまちづくり」の推進を宣言いたします。

平成30年11月20日

富谷市長 



富谷市まちづくり産業交流プラザ「TOMI+(とみぷら)」

平成30年7月1日、富谷市まちづくり産業交流プラザ「TOMI+(とみぷら)」がオープンしました。このTOMI+は、**起業創業の支援**を行うほか、**地域のにぎわいづくり・しんまち活性化**などの役割を担います。

※建物は、国の地方創生拠点整備交付金を活用し、旧役場庁舎を改修



令和3年9月末時点、**170名を超える富谷塾4期生が富谷の未来を考え活動しています。**

3F	<ul style="list-style-type: none"> ● イベントスペース ● ミーティングスペース ● 富谷市民俗ギャラリー
2F	<ul style="list-style-type: none"> ● シェアオフィス 固定席5社 フリー席6者 ● プロジェクトルーム ● 富谷市シルバー人材センター ● くろかわ商工会
1F	<ul style="list-style-type: none"> ● チャレンジスペース

富谷宿観光交流ステーション「とみやど」

かつて宿場町として栄え、富谷市の歴史の原点ともいえるしんまち地区に、令和3年5月15日、「富谷宿観光交流ステーション（とみやど）」がオープンしました。（10月16日 来場者10万人突破!）

とみやどには、明治期に牧師・教育者・政治家として活躍した**本市の偉人 内ヶ崎作三郎氏の生家を改修**し、同氏の功績を広く伝える記念館を整備しました。

※国の地方創生拠点整備交付金を活用して整備



基幹公共交通システムの整備促進

● 富谷市都市・地域総合交通戦略（基本計画）の策定

本市の大きな課題となっている公共交通の整備について、「あらゆる立場・世代の方々でも安全で自由に動けるまちづくり」を目指して、「**富谷市都市・地域総合交通戦略（基本計画）**」を策定。すぐに取り組む事業として、令和2年度に**デマンド型交通運行事業の開始、市民バスの増便**を行いました。

● 今後の取組

策定した基本計画に基づき、**「幹線交通の強化」**を中心とした各種交通施策に取り組んでいきます。



◎ 施策「新たな軸となる基幹公共交通の整備」

仙台市泉中央駅方面への交通利便性の向上を目的に、新たな基幹公共交通の導入による機能強化を図ります。

具体施策	実施主体	短期(5年) 2020～	中期(10年) 2025～	長期 2030～
主要バス路線の運行サービス強化	宮城交通 富谷市	運行強化等		
新たな公共交通軸の事業化検討・実施	富谷市	計画策定、関係者調整、事業化（整備、導入）		

(仮称)やすらぎパークとみや(公営墓地とパークゴルフ場)整備

生涯安心して暮らすことができる住環境整備の一環として、**公営墓地とパークゴルフ場を複合施設として整備を進めています。**

■ 建設地

大亀山森林公園の東側隣接地

■ オープン予定

公営墓地・・・令和5年度中

パークゴルフ場・・・令和6年度

完成イメージ図



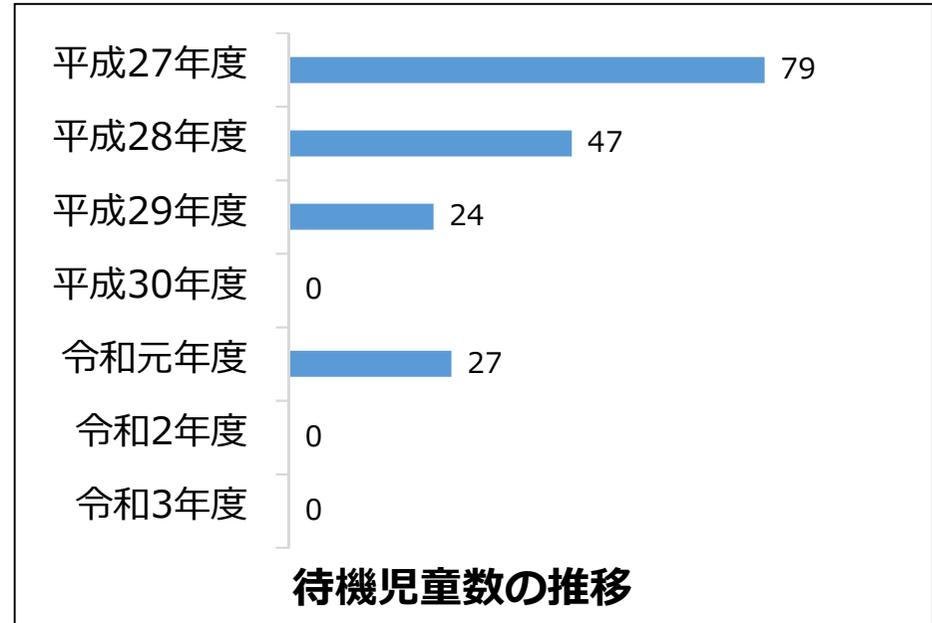


子育て・教育環境の整備

●待機児童ゼロを達成

保育士の確保や新たな保育所を整備し、平成30年度・令和2年度・令和3年度（各年度4月1日時点）に**待機児童ゼロを達成することができました。**

引き続き、求められる保育需要を正確に捉え、保育環境の充実に取り組みます。



●子ども医療費助成制度を拡充

乳幼児の健康と福祉の増進を図るため、平成27年10月から**対象年齢を18歳の年度末まで拡大**しました。

さらに、令和2年10月からは、**小学校4年生以上の通院分の所得制限を撤廃**し、子どもの適正な医療機会の確保及び子育て家庭の経済的負担の軽減を図っています。



東北初の取組 不登校特例校設置へ

東北初となる**不登校特例校（文科省指定）** 富谷中学校西成田教室を、令和4年4月に西成田コミュニティセンター内に開設します。

■ 西成田教室の概要

- 対象は、市内中学校に在籍する不登校、不登校傾向の生徒（来年度入学する小6含む）
- 定員は20名程度の少人数
- 授業は各教科専任の教員が県から配置されます。
- 在籍は富谷中学校となります。



西成田コミュニティセンター
(旧西成田小学校)

不登校特例校のねらい

児童・生徒の実情に応じて、より意図的・計画的な教科指導を少人数や個別の形態で実施することで、学ぶ楽しさと成長する喜びを体感し、社会的自立に結び付けます。

高齢者・障がい者の外出支援を行っています！

● 高齢者・障がい者 外出支援乗車証「とみぱす」の導入

平成28年10月10日から、高齢者・障がい者を対象に、IC乗車証イクスカを活用した、**外出支援乗車証「とみぱす」**を導入し、社会参加と安全安心な移動を支援しています。

※利用限度額は年間2万円



【適用区間】

富谷市民バス（「とみぱす」提示で、無料にご利用いただけます。）

仙台市営バス・地下鉄、るーぷる仙台、楽天シャトルバス、宮城交通・ミヤコーバス、仙台空港アクセス線、仙台SuicaエリアのJR線

● 福祉タクシー利用券助成開始

平成30年10月1日からは、より重い障害を抱える方や重度の要介護状態の方に対して、**福祉タクシーの利用料金の一部助成を開始**し、日常生活の利便性向上や社会活動の範囲拡大を図っています。

※令和3年4月からは、対象者を拡大



富谷市「ゼロカーボンシティ」宣言

～2050年 二酸化炭素排出実質ゼロに向けて～

令和3年2月9日、「脱炭素チャレンジカップ2021」が開催され、ファイナリストに選出されていた**本市の水素プロジェクトが優秀賞を受賞**しました。



さらに、将来にわたり、安全・安心に暮らすことができる豊かな環境を未来に引き継いでいくため、**2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し「ゼロカーボンシティ」を宣言**しました。

今後は、これまで実施してきた取組や課題・検討事項を整理し、具体的な施策内容について、「富谷市2050年ゼロカーボンシティ戦略」としてとりまとめます。



富谷市「ゼロカーボンシティ」宣言
～2050年 二酸化炭素排出実質ゼロに向けて～

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、猛暑や集中豪雨などの自然災害が頻発化、激甚化しています。本市においても、市民の暮らしが脅かされるような災害が身近に迫るなど、現在、まさに気候危機と言うべき状況であり、その対策は不可欠なものとなっています。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるように努力する」との目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」と示されています。

富谷市においては、まちづくりの将来像として掲げる「住みたくなるまち日本一」の実現に向け、環境政策の一環として平成29年度に環境省地域連携・低炭素水素技術実証事業「富谷市における既存物流網と純水素燃料電池を活用した低炭素水素サプライチェーン実証」の採択を受け、水素エネルギーの民生利用に向けた取組を進めております。

将来にわたって、安全安心に暮らすことができる豊かな環境を未来に引き継いでいくため、資源循環、エネルギーの地産地消など地球環境の貢献につなぐまちづくりを進め、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」をオール富谷で取り組むことを宣言します。

令和3年2月10日

富谷市長 *若日 裕哉*



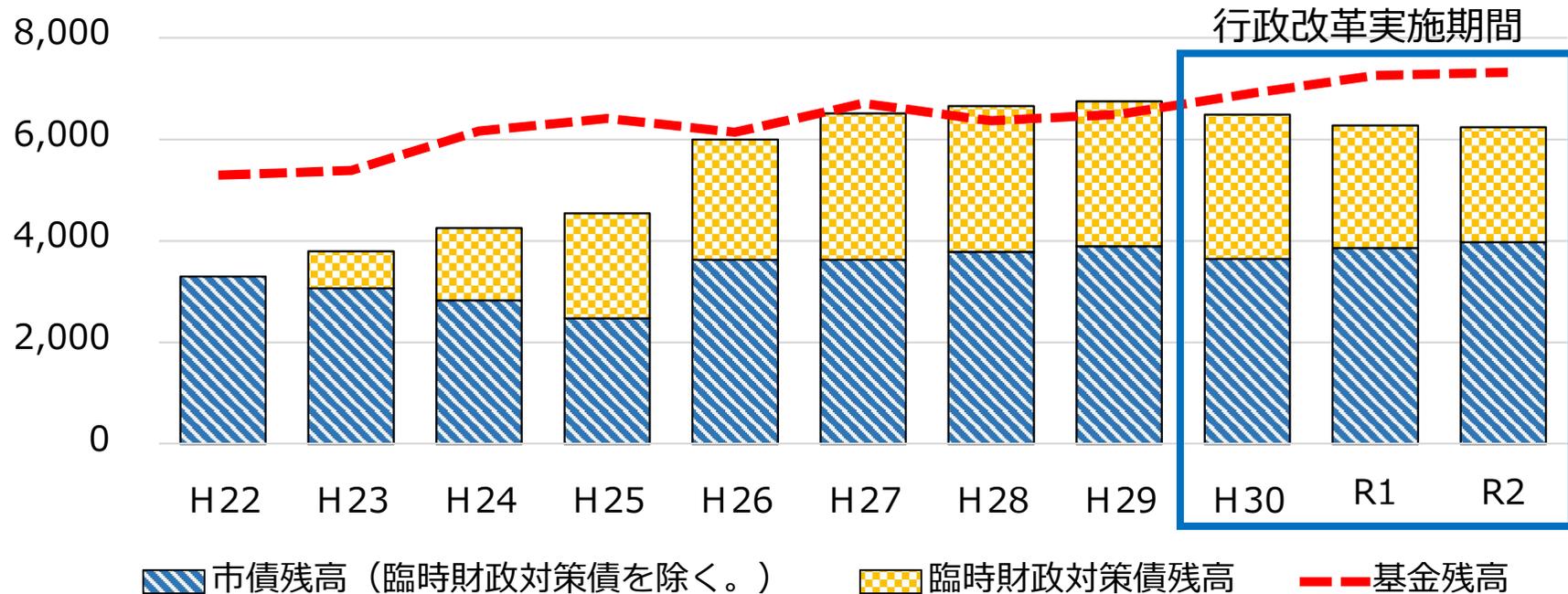


健全な行財政経営の推進

令和2年度各種会計決算が議会により認定されました。平成29年度から着手している行政改革の取組により、一般会計における「市債残高」の3年連続減少、「基金残高」の4年連続増加（3年連続過去最高水準を更新）など、健全な財政運営に努めました。

引続き、持続可能な行財政運営に向けて、健全で透明性のある行財政経営を進めていきます。

貯金（基金残高）と借金（市債残高）の推移

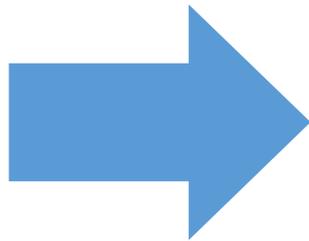


富谷市民図書館等複合施設の整備状況



～市民図書館、スイーツステーション、児童屋内遊戯施設～

市民図書館、スイーツステーション、児童屋内遊戯施設の3施設それぞれの整備を進める中で、各施設の類似性の高い機能の集約・共有化を図ることで生まれる相乗効果により、単独で整備した場合と比べ、各施設の充実など課題解決につながる可能性が見込まれました。



3施設の複合化による施設整備を決定

令和7年度の開館を目指します

施設概要

- ・ 2階建て
- ・ 延床面積2,900m²

※民間活力導入可能性の検討を行い、国の交付金等も最大限に活用します。



住みたくなるまち日本一を目指して

引き続き、市民の皆様の声が届く市政を基本とし、
行政運営に取り組んでまいります。
今後も、ご指導とご協力、よろしくお願いいたします。



富谷市長 若生 裕俊 職員一同